

近畿地方整備局
資料配付

配布日時	平成 23 年 9 月 24 日 18 時 00 分
------	-------------------------------

件名	砂防専門家チームによる河道閉塞部における堆積土砂の危険性の所見
----	---------------------------------

概要	<ul style="list-style-type: none"><li>・熊野については9月21日、22日、赤谷については9月22日にヘリによる上空からの調査を実施しました。</li><li>・ヘリ調査で得られた画像を分析し、状況の確認をしました。</li><li>・所見については、これまでに実施した限定的な調査に基づくものであり、今後の状況の変化と調査の進展に伴い変わることもあり得ます。</li></ul>
----	--

取扱い	-
-----	---

配布場所	近畿建設記者クラブ 大手前記者クラブ
------	-----------------------

問合せ先	近畿地方整備局 河川部 河川調査官 なかごめ あつし 中込 淳（内線 86-3513） 河川部 河川計画課 よしだ かずあき 吉田 一 亮（内線 86-3611） 代表 06-6942-1141 直通 06-6945-6355
------	--

平成23年9月24日  
国土交通省近畿地方整備局  
砂防専門家チーム  
(国土技術政策総合研究所危機管理技術研究センター、  
独立行政法人土木研究所土砂管理研究グループ)

## 河道閉塞部における堆積土砂の危険性について

熊野については9月21日、22日、赤谷については9月22日のヘリコプターによって上空からの調査を実施。

台風15号に伴う出水によって、赤谷・熊野については湛水位が上昇し、越流が確認された。

ヘリ調査で得られた画像を分析した結果、以下の状況が確認された。

- 1) 降雨により水位が上昇し2つの河道閉塞箇所でも越流したが、比較的緩慢に越流が始まったと推測され、越流により生じた洗掘、侵食の規模は比較的小さい。
- 2) 天候の回復による湛水池への流入量の減少、越流及び河道閉塞部における堆積土砂(以下、河道閉塞土砂)からの漏水により水位が低下している。
- 3) ただし河道閉塞土砂からの漏水については台風15号以前より増大しているものは見られない。
- 4) 台風15号による降雨により、河道閉塞を引き起こした崩壊斜面からの土砂流出が見られた。

河道閉塞土砂の水位は、別紙の通り現在も高い状態が続いているが、その変動は小さい。

下流河道はモニター映像で見える限り台風15号以前の状況に戻っている。

より、河道閉塞土砂の危険性は

- 1) まとまった降雨があると、越流による洗掘・侵食が進行する可能性があり、湛水位が台風15号以前の状態まで下がらない状態では危険性は相対的に高いと判断される。
- 2) 侵食が進んだ部分は河道閉塞土砂の一部にとどまるため、今後の降雨による急激な形状変化が無ければ、比較的河道閉塞土砂は安定している。
- 3) しかし、台風でゆるんだ崩壊地については、二次崩落の危険性が引き続きあるため、警戒が必要である。

なお、以上の所見は、これまでに実施した限定的な調査の結果に基づくものであり、今後の状況の変化と調査の進展に伴い変わることもあり得る。

## 水深状況

期間:9/20 0:00 ~ 9/23 12:00

